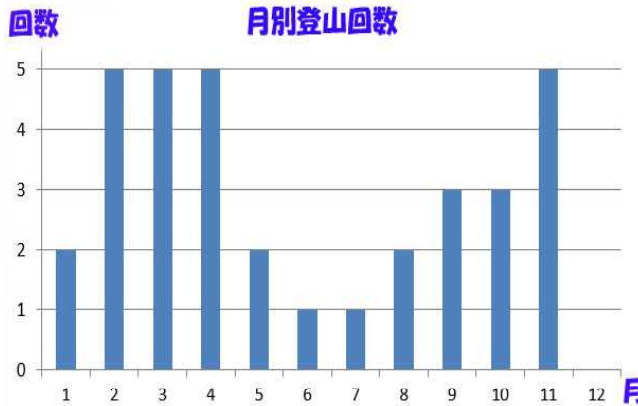


## 記憶に残った山行

今年1年、野山を4Km以上歩いた回数は、34回で、一昨年より5回多くなった。



月別頻度を見ると、2つのピークがあって、最初のピークは高山植物が咲く時期の2,3,4月。第2のピークは、紅葉の季節となる9,10,11月。

両ピークの谷となった6月,7月は、コロナワクチン注射のため、山行を控えた時だった。

この様にコロナ禍の影響を受けながら1年が経過したが、記憶に残った山行を拾い出してみた。

雨巻山 2021.02.12



第1回目の山行は三登谷山経由で一周したが、12月から1月にかけての運動不足の影響のため、登りながら何度も引き返そうかと思ったほど、キツかった。

寒さも厳しく、ダウンの上下を着ての山行であった。

下山途中、休んでいると、若い登山者から「大丈夫ですか？」と声をかけられてしまった。

余程、疲れ切った姿で休んでいたのであろう。

親切に声をかけてくれたことに感謝しているが、ハイジーが単独行をする事は、周りの人に迷惑をかけてしまう危険性が大きいという事を初めて悟った山行となった。

明山 2021.04.21



この山は、NHK里山歩きを始めた20年ほど前から登ってみたいと思いつけていた山だ。

登りたいと思いながら実行に移さなかったのは、山頂までの行程が長かったからだ。

ところが、「ヤマレコ」ソフトをスマホに入れて調べたところ、山頂まで約1kmで登る事ができりことが分かった。

即、山友に連絡して登る事が出来た。

山頂からは龍神峡大橋、竜神ふるさと村を見渡すことができた時の感激はひとしおだった。

下山は、密かに決めていたルート外のコースを選択したが、途中で、コースを外れてしまい、急斜面を下りることになってしまった。

最終的には、谷川を沢歩きをして登山口に到達。

久しぶりに若かりし頃のブッシュ漕ぎ、沢歩きを経験出来て大満足だった。

でも、ハイジーとしては、絶対、選択すべきルートルートではないと、深く反省した山行だった。

半月山 2021.06.10



かつて、山友に誘われて社山に登り、日光の中禅寺湖、男体山を眺めた景色はいつまでも忘れられない景色だ。

この景色を妻に見せ、その足でクリンソウも見ることにした。

ハイジー、ハイパーが登った距離は、往復2km。

セミの大合唱の中、低い笹に覆われた高山の雰囲気がある山道を登った。

山道には、サラサドウダン、シロヤシオ、アカヤシオ、グミの花が真っ盛りだった。

熊鈴を鳴らして歩いたが、セミの声のほうが大きくて役に立たなかった。(社山登

山時には、熊に出会った登山者がいた)

展望台からは、中禅寺湖、男体山が眼下に一望出来る最高の天気であった。  
クリンソウの花は、最盛期だったが、人が沢山いてコロナの心配をしてしまった。

### 難台山



難台山へ磐梯山登山の足慣らしに行った。

この山は、朝の涼しいうちに登るのが、「通」。

日が照り出してから登ると、これでもか!と思われるほど、暑さに苦戦する。

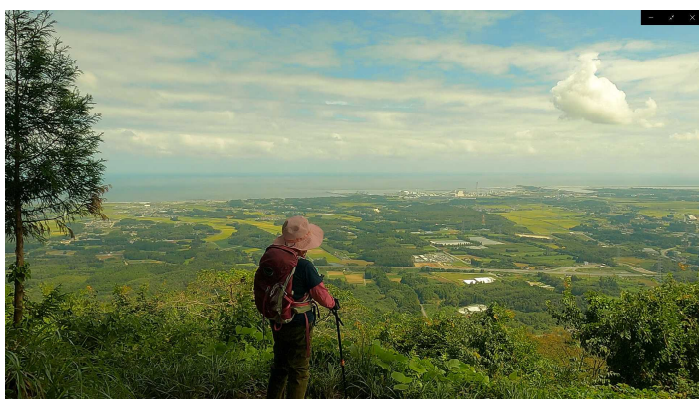
1時間かけて登り、45分ほどかかって下山したが、ハイジー、ハイパーの登山に向いている里山だった。

すれ違う登山者は、マスク姿であった。

駐車場で携帯用の椅子とテーブルを出して、木陰で昼食。

涼しい風、鳥の声を聞きながら食べる握り飯は、最高の贅沢。気がつけば、結婚記念日だった。

### 鹿狼山 2021.09.20



コロナ禍の影響で、日常生活が拘束されていて閉塞感が漂っていた。

閉塞感を払拭し、かつ、楽しめる山を探したところ、相馬市にある鹿狼山が思い浮かんだ。

この山は、往復4km。山頂から太平洋が一望できる楽に登ることができると宣伝していた。

山道には、ホトトギス、ツリガネニンジン、月見草、ツルフジバカマの花々が咲いていて楽しく登る事が出来た。

山頂からは、太平洋が、反対側には、蔵王連峰が一望できる見晴らしの良い場所だった。

下山の2kmは、整備の行き届いたなだらかな山道であったが、これが、災いして、下山スピードが速くなってしまった感があった。

この登山を機に、妻は足を痛め、以後の山歩きはお休み中となってしまった。油断大敵を身をもって知った山行となってしまった。

磐梯山 2021.09.25



磐梯山には、八方台ルート、翁島ルートから、4,5回登っているが、猪苗代からは登った事がなかった。

スキー場を延々と歩くのを良しとしなかった事と、林道ルートから登ってきた登山者の話を2,

3回聞いて知っていたからだ。

登りたいと思ってから14,5年。体力的に磐梯山への登山が出来るギリギリの年齢と思い、山友と決行を試みた。

林道終点からのルートは、距離も短いうえに（往復7.3km）、登山者も少なく、景色もよく、途中で水場もある最高のルートなのだ。

予想にたがわず、景色を満喫しながら登る事が出来た一押し、ルートだ。

ただ、熊鈴は必須のルートではある。

月居山 2021.11.19



月居山の紅葉は、すごく奇麗である事は、写真でわかっていた。

ただ、その時期を特定するのに苦労したが、今回は、時期、天気、メンバーが揃った甲斐があって、素晴らしい紅葉に出会うことが出来た。

月居山の観音堂から袋田の滝へのコースは、何度も歩いているが、不思議と月居山へは登った事はなく、紅葉に出会うことが出来るか不安でもあった。

途中で出会った登山者は、1週間前にも登ったが、紅葉には早かったので、再挑戦

したとのことだった。

観音堂からの登りと下りは急である事はわかっていたが、過酷な急階段を延々と上り、下り、足が痛くなってしまった。

登山メンバーは、シニアスキークラブの86歳を筆頭に、ハイジー、ハイバー4人だったが、天気に恵まれ、最高の紅葉を見る事が出来て、全員、大満足で帰路についた。

2022年 元旦

新年に向けて



夫婦共に、紺碧に舞う凧のように  
自由に、天高く、舞い上がり、  
介護保険を利用しないですむ  
幸せを願って歩んでいきたい